

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

**このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。**

**このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。**

**このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。**

第57次国立七大学附属図書館協議会及び

第16回同部課長会議報告

標記会議は、去る10月13日、名古屋大学附属図書館が当番校で開催され、本学からは、館長、事務部長及び整理課長が出席した。また、文部省からは、廣田情報図書館課長、倉橋同課専門員が出席した。

まず、午前中に行われた部課長会議では、名古屋大学附属図書館の高澤事務部長が議長となり、次の協議題について、活発な意見の交換、討議が行われた。

- (1) 地域センターへ導入の電算機の運営費の予算措置について。
- (2) カード目録体系を維持していく上での省力化について。
- (3) 学術情報システムと職員の研修について。
- (4) その他、当面の諸問題について。

上記(1)(2)は、本学からの提案であったが、(1)は地域館としての先発館からそれぞれ運営経費支出の実情について詳細な報告があり、電算化を計画している本学にとって極めて有益であった。(2)についても、目録のマニュアル業務における省力化について各大学から苦慮している旨の報告があり、電算処理によってのみその効率化、高度化が図られようとの意見もあった。

午後からの協議会では、名古屋大学の柘植附属図書館長が議長となり、次の議題について協議が行われた。

1. 学術情報システムにおけるRC（地域センター）の設置構想について
2. RC館の目録システムについて

3. 学術情報センター（文献情報センターを含む）の整備充実について
4. 著作権の集中処理に関する「中間まとめ」について
5. 大学図書館における文献複写業務に係る著作権の問題について
6. 保存図書館について
7. 学術雑誌（バックナンバー）の集中、共同利用化について
8. その他、（図書館公開、業務等の見直し）

本年も、学術情報センターシステムに関連の議題が中心であるが、今回は、すでにRC館として電算化を実施している館が3館となり、九大、名大、阪大から具体的な事項について状況の報告が多くあった。また、文部省側からは、NCの機能をもつ文献情報センターについての現況、来年度概算要求と将来計画、大学図書館との接続状況などについての説明があり、さらに、各協議題に対しても随時適切な助言があった。

一昨年以来の議題である保存図書館の問題については、検討に際して、まず現状の把握が必要であることから、東大において近く各大学に対して実態調査を行う旨の提案があり、調査案が示された。また、京大においては、新館の中に、雑誌バックナンバーの集中・共同利用化のための書庫を設ける計画があり、その紹介があった。

協議会は、明年の当番校を京大と決定し、盛会裡に閉会した。

昭和57年度・中央図書館利用状況の概要（1）

中央図書館の利用状況について昭和57年度利用統計をとりまとめた。これらのうち主要なものを図表にして次に掲載する。

注：表中の〔 〕内は昭和56年度のデータ。

1 利用対象者数

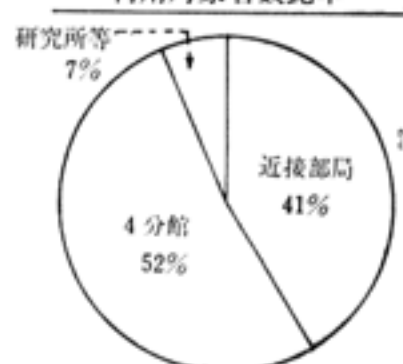
- ・全学総数 18,232人〔18,083人〕
- ・分館（医・北青葉山・工・農学）利用対象者を除く数 8,696人〔10,103人〕
- ・近接部局利用対象者数 7,438人〔7,319人〕

2 入館者数（推定）

- ・年間総数 468,512人〔538,396人〕
- ・1日平均数 1,457人〔1,727人〕
- ・学生の入館数 422,402人〔499,381人〕

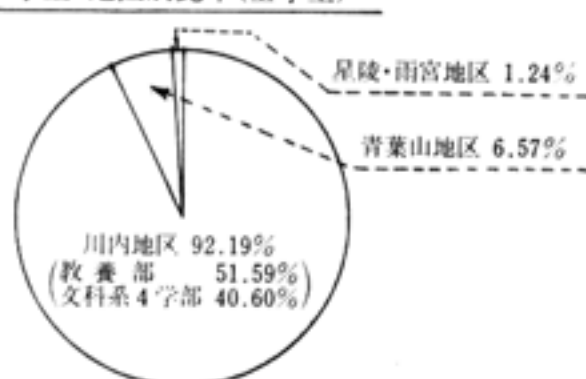
学生・部局別入館者数（入館者実態調査より推計）

利用対象者数比率

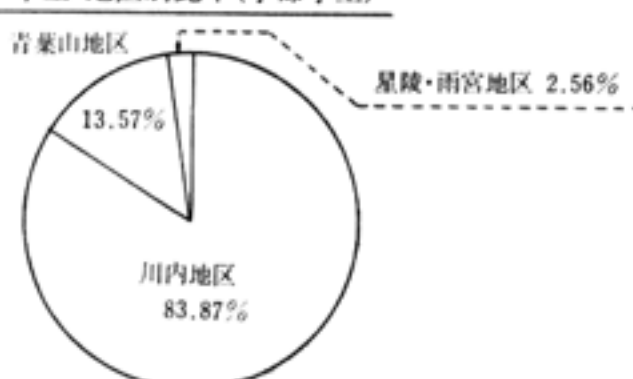


注：近接部局とは、川内地区の文・教育・法・経済の4学部及び教養部をさす。

学生・地区別比率(全学生)



学生・地区別比率(学部学生)

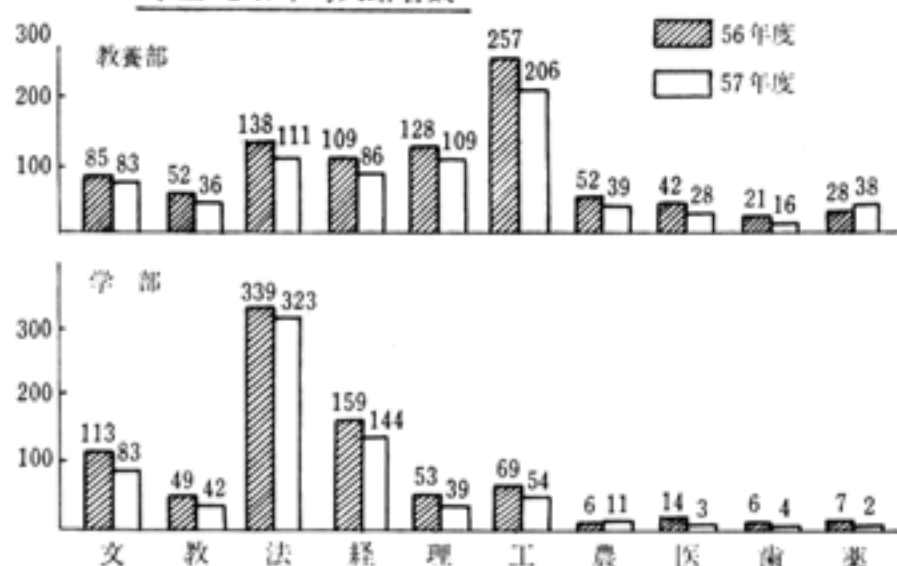


学生・部局別入館者数（入館者実態調査より推計）

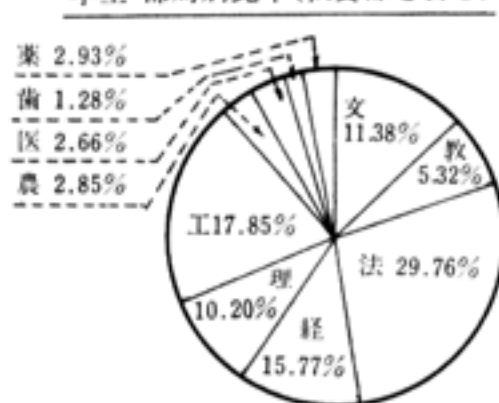
		文	教	法	経	理	工	農	医	歯	薬	計	
												1日平均(人)	在籍1人当(回/年)
教養部	1日平均(人)	83	36	111	86	109	206	39	28	16	38	752	45
	在籍1人当(回/年)	65	71	67	49	51	33	33	31	26	32	[912]	[55]
学部	1日平均(人)	83	42	323	144	39	54	11	3	4	2	705	42
	在籍1人当(回/年)	73	84	173	90	19	11	11	2	4	4	[815]	[49]
計	1日平均(人)	166	78	434	230	148	260	50	31	20	40	1,457	44
	在籍1人当(回/年)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[1,727]	[52]

※ 年間開館日数 290日〔289日〕

学生・1日平均入館者数



学生・部局別比率(教養部を含む)



3 閲覧・貸出冊数（全利用者）

イ）開架閲覧室資料

単位：百冊

主 題	総 記	哲 学	歴 史	社 科 会 学	自 科 然 学	工 学	産 業	芸 術	言 語	文 学	雑 誌	計
閱 覧	38	64	68	315	371	33	1	34	189	103	302	1,518
貸 出	7	29	21	87	125	14	0.1	9	6	38	0.3	337

ロ）書庫内資料

単位：百冊

主 題	総 記	哲 学	歴 史	社 科 会 学	自 科 然 学	工 学	産 業	芸 術	言 語	文 学	雑 誌	計
閱 覧	4	4	7	14	1	0.3	0.2	1	1	9	47	89
貸 出	17	40	28	94	8	0.4	1	5	7	23	41	265

4 入 庫 者 数

院 生	教 官	計
5,561人	2,276人	7,837人
[5,617人]	[2,454人]	[8,071人]

図書館業務機械化検討の状況（1）

昭和58年5月～10月

図書館業務の機械化を推進するため各業務毎にワーキンググループ（以下「WG」と略記）等が発足した（本誌第8巻第2号P. 6）が、各WGにおける検討会の状況は以下の通り。

雑誌業務WG：第1回（5/20）～第7回（9/5）

他大学等システム事例の検討，第8回（9/19）
 学術情報センターシステムの雑誌サブシステム
 について，第9回（10/7）～第10回（10/24）
 雑誌業務の業務分析

受入業務WG：第1回（7/21）～第7回（10/27）

他大学システム事例の検討

目録業務WG：第1回（7/15）～第4回（8/15）

他大学システム事例の検討，第5回（9/7）
 ～第6回（9/21）学術情報センターシステムの
 目録システム，大学図書館研究集会・目録部
 会報告，第7回（10/15）J-MARCの概要

閲覧業務WG：第1回（7/14）～第6回（9/22）

他大学システム事例の検討，第7回（10/8）～
 第8回（10/26）閲覧業務の業務分析

WG連絡会議：第1回（9/2）WG連絡会議の

役割，各WG報告，今後の日程，第2回（10/
 11）各WG報告。

昭和57年度参考図書購入報告

参考図書購入経費（文学部、教育学部、法学部、経済学部の四学部部間共通費、本学共通経費、本省事項指定参考図書費）によって下記の資料を購入いたしました。（※印は継続購入）なお、これらの資料は本館レファレンス・コーナーに備え付けておりますのでご利用ください。（受 入 掛）

A 所蔵目録

1. 学術雑誌総合目録 欧文編補遺版 1982 文部省学術国際局
- ※2. 現行医学雑誌所在目録 1982年版 日本医学図書館協会
3. JICST 逐次刊行物所蔵目録 1981年版 上・下 日本科学技術情報センター
4. 国立国会図書館和雑誌目録 昭和56年末現在 付追録 国立国会図書館
5. 杏雨書屋蔵書目録 武田科学振興財団
6. 日本学術資料総目録 美術工芸 1983 Almic
" 書跡・典籍・古文書 1983
7. 日本全国書誌 全3巻 昭和52年版 国立国会図書館
8. 帝国図書館和漢図書書名目録 1 汲古書院
9. 点字図書・録音図書全国総合目録 国立国会図書館
- ※1. Bibliografia Nazionale Italiana. Vol. 23 (1980)
- ※2. National Union Catalogue. Pre-1956 Imprint. Vol. 741-754.
3. Titles of English Books. Vol. 1-2.

B 出版目録

1. 中国書籍総目録 第Ⅰ期 全6巻 龍溪書舎
2. 中国語 日本書総合目録 中文大学出版社、香港
- ※3. 日本書籍総目録 1982 全3巻 日本書籍出版協会
- ※4. NON 日本書籍総目録 1982年版 新泉社
- ※5. 出版年鑑 1982 出版ニュース社
- ※6. 雑誌新聞総かたろぐ 1982年版 メディアリサーチ・センター
- ※1. American Book Publishing Record. 1981
- ※2. Библиография изданий академий наук СССР. Ежегодник. Том 23 (1978)
- ※3. Библиография советской библиографии. 1979.
- ※4. Books in Print Supplement. 1981-82. 2 vols.
- ※5. British Books in Print. 1982 ed. Vol. 1-2.
- ※6. Catalogue General des Livres Imprimés de la Bibliothèque Nationale. Tome 231
- ※7. DDR Gesamtkatalog. 1981/1982 Bd. 1-2.
- ※8. Deutsche Bibliographie. Fünfjahres-Verzeichnis, 1961-1965. Tl. II. Lfg. 1, 10, 14-18.
" " 1971-1975. Tl. I. Bd. 8-9.
" " " Tl. II. Bd. 8.
- ※9. Deutsche Bibliographie Zeitschriften-Verzeichnis. 1977-1980. Bd. 1-2.
- ※10. Deutsches Bücherverzeichnis. 1966-1970. Tl. I. /Lfg. 7-22.
" " " Tl. II. /Lfg. 67-70.
" " 1971-1973. Tl. I. /Lfg. 10-15.
" " 1974-1975. Tl. I. /Lfg. 11-20.
- ※11. Ежегодник книги СССР. 1978 Том 2.
" " 1979 Том 1.
- ※12. Guide to Reprints. 1982. 2 vols.
- ※13. Демопись периодических и продолжающихся изданий. 1971-1975.
Цасмь 2. Лаземи
- ※14. Демопись периодических и продолжающихся изданий.
Бюлле мени. 1973-1974.
- ※15. Paperbound Books in print. Spring. 1982. Vol. 1-3.
" Fall. 1982. Vol. 1-3.
16. The Standard Periodical Directory. 7th ed. 1981-82.
- ※17. Subject Guide to Reprints. 1980/81. 2 vols.

- ※1. Bibliographic Guide to Art and Architecture. 1981. Vol. 1-2.
 " Bussiness & Economics. 1981. Vol. 1-3.
 " Conference Publication. 1981. Vol. 1-2.
 " Government, Publications U. S. 1981. Vol. 1-2.
 " Government, Publications Foreign. 1981. Vol. 1-2.
 " Law. 1981. Vol. 1-2.
 " Psychology. 1981.
 " Technology. 1981. Vol. 1-2.
 " The Two World Wars.
- ※2. International Bibliography of Social Sciences. Anthropology. Vol. 25 (1979)
 " Economics. Vol. 28 (1979)
 " Political Science. Vol. 29 (1980)
 " Sociology. Vol. 30 (1980)
- ※3. Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur. Vol. 17 (1981)
 Pars 1: Index Autorum A-K, L-Z.
 Pars 2: Index Autorum A-K, L-Z.
 Pars 2: Index Rerum A-F, G-K, L-R, S-Z.
- ※4. Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur. Vol. 18 (1982)
 Pars 1: Index Rerum A-F, G-K, L-R, S-Z.
- ※5. Reader's Guide to Periodical Literature. Vol. 37-39.

E 地図・地名・人物・機関名鑑類

1. アトラス現代世界 昭文社
2. 中国工商企業名録 新華出版社、北京
3. 中国組織別人名簿 1983 ラジオプレス
4. 中日対照 世界地名人名辞典 国書刊行会
- ※5. 著作権台帳 18版 日本著作権協議会
- ※6. ダイヤモンド会社職員録 全上場会社版 1983 上、下 ダイヤモンド社
 " 非上場会社版 1982
- ※7. ダイヤモンド会社要覧 全上場会社版 1982 ダイヤモンド社
8. 英中対照 中国地名人名辞典 国書刊行会
9. 現代中国人名辞典 霞山会
- ※10. 現行行政機関組織図 昭和57年版 日本人事行政研究所
11. 外国会社年鑑 1983年版 日本経済新聞社
12. 現代北朝鮮地名辞典 国書刊行会
- ※13. 人事興信録 第32版 上、下 人事興信所
- ※14. 角川日本地名大辞典 6巻, 22巻, 26巻(上、下), 31巻, 41巻, 46巻 角川書店
- ※15. 海外進出企業総覧 (東洋経済臨時増刊) 1982 東洋経済新報社
- ※16. 会社年鑑 1982年版 日本経済新聞社
 " 1983年版
- ※17. 会社総鑑 非上場会社版 1982 日本経済新聞社
- ※18. 近世人名録集成 5巻(総索引, 別称索引)
19. 国語・国文学者名簿総覧 昭和57年度 教育出版センター
20. 国公立理工学試験研究者名簿 AOI産業
21. 明治維新人名辞典 吉川弘文館
22. 明治大正文学美術人名辞典 国書刊行会
23. 明治大正国勢総覧 東洋経済新報社
24. 宮城県百科事典 河北新報社
- ※25. 年刊 人物文献目録 1981 I. 日本人編 日外アソシエーツ
 " 1981 II. 外国人編
26. 年刊 企業団体情報事典 1982 I. 政治・社会・教育編 日外アソシエーツ
 II. III. 経済・産業編
- ※27. 日本分県地図 昭和58年版 人文社
28. 日本博士名鑑 竹書房
29. 日本寺院名鑑 全2冊 名著普及会
- ※30. 日本国勢図会 1982 国勢社
- ※31. 日本歴史地名大系 2, 8, 31, 35 平凡社

- ※32. 日本歴史地図 原始古代編 上, 下 柏書房
 33. 日本都市地図全集 昭和57年版 人文社
 34. 農林水産試験研究者名簿 1982 AOI産業
 35. 陸海軍将官人事総覧 海軍編 芙蓉書房
 " 陸軍編
 36. 世界の研究所要覧 1983 日刊工業新聞社
 37. 世界帝王系図集 近藤出版社
 38. 戦前期 日本官僚制の制度・組織・人事 東京大学出版会
 ※39. 職員録 昭和58年版 大蔵省印刷局
 ※40. 昭和新修華族家系大成 上 社団法人霞会館
 41. 東京百科事典 国土地理協会
 ※42. 全国大学職員録 昭和58年版 国公立大学・私立大学編 広潤社
 ※43. 全国学校総覧 昭和58年版 東京教育研究社
 ※44. 全国短大・高専職員録 広潤社
 45. 全国都市統計総覧 1982 東洋経済新報社
 1. American Men and Women of Science. 14th ed. Vol. 1-8.
 2. Awards, Honors, and Prizes. 5th ed. Vol. 2.
 ※3. Contemporary Authors. Vol. 105-106.
 4. The Dictionary of National Biography. 1961-1970.
 ※5. Dizionario Biografico degli Italiani. Vol. 23-25.
 6. International Guide to Library, Archival and Information Science Association. 2nd ed.
 ※7. International Who's who. 1982-1983.
 ※8. Irregula Series and Annuals and International Directory. 8th ed. (1983)
 ※9. National Faculty Directory. 1983. Vol. 1-3.
 10. Publisher's International Directory with ISBN Index. 9th ed. 2 vols.
 11. Rulers and Governments of the World. Vol. 1-3.
 12. The Times Survey of Foreign Ministries of the World.
 ※13. Who was Who in America. Vol. 7. 1977-1981.
 " Index 1607-1981.
 ※14. Who's Who. 1982.
 15. Who's Who : European Communities and other European Organizations.
 ※16. Who's Who in America. Vol. 42.
 ※17. Who's Who in the Arab World. 1981-1982 6th ed.
 18. Who's Who in Western Europa. 1981 ed.
 ※19. Willings Press Guide. 1982 ed. 108th ed.
 ※20. World of Learning. 32nd ed. 1981-82. 2 vols.

F 百科事典

1. 世界大百科事典 全36巻 平凡社
 ※1. Encyclopaedia of Islam. New ed. Vol. 5, Fasc. 87/88.
 " Suppl. Fasc 3, 6.
 ※2. Encyclopedia of Library and Information Science. Vol. 33.
 ※3. Большая Советская Энциклопедия. Ежегодник. Вып. 25. 1981.
 ※4. Grand Dictionnaire Encyclopédique Larousse. Tome 1-4.
 ※5. Great Soviet Encyclopedia. Vol. 28-30
 ※6. Meyers Enzyklopädisches Lexikon. Jahrbuch 1982.

G 特定主題事典

1. 中国仏教史辞典 東京堂出版
 2. 中国歴代職官辞典 国書刊行会
 3. 江戸物師事典 展望社
 4. 演奏家大事典 1-2 音楽鑑賞教育振興会
 5. フランス文学事典 Bordas
 6. 現代フランス文学 作家作品事典 講談社
 7. 現代マルクス・レーニン主義事典 別巻 索引・年表 社会思想社
 8. 現代証券事典 日本経済新聞社
 9. 原色版 日本薬用植物事典 誠文堂新光社

- ※10. 原色浮世絵大百科事典 2, 3, 4, 6, 11巻 大蔵館書店
- ※11. 医科学大事典 1-25巻 講談社
12. 会計学辞典 東洋経済新報社
13. 花柳風俗語辞典 東京堂出版
14. 近代日本哲学思想家辞典 東京書籍
- ※15. KODAK 写真大百科事典 第9巻 講談社
- ※16. 国史大辞典 3 吉川弘文館
- ※17. 狂歌大観 1 明治書院
18. 共立総合コンピュータ辞典 2版 共立出版
19. 旧約聖書ヘブル語大辞典 日本ルーテル教団
20. 万葉集歌人事典 雄山閣出版
21. 日本文学史辞典 京都書房
22. 日本の野生植物 1, 2 平凡社
23. 日本書誌学用語辞典 雄松堂書店
24. お金・紙幣・金融の大辞典 日本総合図書販売
25. 沖縄有毒害生物大事典 動物編 那覇, 新星図書出版
- ※26. 音楽大事典 2, 3, 4 平凡社
27. 落首辞典 東京堂出版
28. 類語対照国語の語源 国書刊行会
- ※29. 類聚伝記大日本史 16巻 雄山閣出版
30. 社会思想事典 中央大学出版部
- ※31. 写真大百科事典 第10巻 講談社
32. 色名事典 日本色研事業
33. 新編 西洋史辞典 東京創元社
34. シリーズ大東亜戦争下の記録 I. 大東亜戦争書誌 上, 中, 下 日外アソシエーツ
II. 戦時下の言論 上, 下
35. 総合コンピュータ辞典 共立出版
36. 篆源 緑地社
37. 薬学大事典 日本工業技術連盟
38. 篆楷字典 国書刊行会
39. 篆書字典 国書刊行会
40. 図説 日本武道辞典 柏書房
1. McGraw-Hill's Encyclopedia of Science & Technology. 5th Rev. ed. 15 vols.

H 語学辞典

1. パーンハート英語新語辞典 秀文インターナショナル
2. 独英和活用大辞典
3. 現代中国語辞典 光生館
4. 現代伊和熟語大辞典 日外アソシエーツ
- ※5. 角川古語大辞典 第1巻 角川書店
6. 慣用句辞典
7. 新英語学辞典 研究社
8. 新英和大辞典 研究社
9. 新編 大言海 富山房
10. 和伊辞典 イタリアン書房
- ※1. Althochdeutsche Wörterbuch. Bd. 3. Lfg. 12-13.
- ※2. Middle English Dictionary. Pt. 0.2-0.4
- ※3. Oxford Latin Dictionary. Fasc. 8.

I 年鑑

- ※1. 朝日年鑑 1983年版 朝日新聞社
- ※2. ブリタニカ国際年鑑 82年度版 テイビーエス・ブリタニカ
- ※3. 中国総覧 1982 霞山会
- ※4. 時事年鑑 昭和58年版 時事通信社
- ※5. 河北年鑑 昭和58年版 河北新報社
- ※6. 韓国年鑑 1982 日韓経済新報社
- ※7. 国語年鑑 昭和57年版 秀英出版
8. 日本新聞年鑑 1982 電通
- ※9. 日本都市年鑑 1982 自治新報社

- ※10. 世界年鑑 1982年版 共同通信社
- ※11. 新中国年鑑 1982 大修館書店
- ※12. 図書館年鑑 1982 日本図書館協会
- ※13. 読売年鑑 1983年版 読売新聞社
- ※14. ユネスコ文化統計年鑑 1980年 原書房
- ※1. The Europe Year Book. Vol. 1 (1982)
- ※2. Les Livres Disponibles. 1982. 3 vols.
- ※3. The Statesman's Year-Book. 119th ed. 1982-83.
- ※4. The World Almanac and Book of Facts. 1982.

J その他

- 1. 逐次刊行物目録規則 国立国会図書館
- 2. 中文工具書使用法 商務印書館, 出版, 北京
- 3. 中国現代史年表 国書刊行会
- 4. 中国語商業手紙文 科学書院
- 5. 中国歴代年表 国書刊行会
- 6. 英米目録規則 第2版 日本語版 日本図書館協会
- 7. 英文日本美術年表 芸心社
- 8. 福島県民百科 福島民友新聞社
- ※9. 現代用語の基礎知識 1983年版 自由国民社
- 10. 判例 民事六法全書 昭和57年版 第一法規出版
- ※11. 岩波 六法全書 昭和58年版 岩波書店
- 12. JICST 科学技術用語シソーラスタームチャート 日本科学技術情報センター
- 13. 人名用総合漢字表 日本加除出版
- 14. 情報管理シリーズ 1~10 日本科学技術情報センター
- ※15. 樹木・庭園樹・公園樹 続編Ⅰ ワールドグリーン編集部
- 16. 科学技術情報ハンドブック 日本科学技術情報センター
- 17. 故事・俗語・ことわざ大辞典 小学館
- 18. 国際儀礼とエチケット 学生社
- ※19. 文部省科学研究費補助金採択課題一覧 昭和57年度 ぎょうせい
- 20. 日本の医療史 東京書籍
- ※21. 理科年表 昭和58年版 丸善
- 22. ルーズリーフ ことばの百科事典 ぎょうせい
- 23. 最新英語情報辞典 小学館
- 24. 和刻本漢籍分類目録補正 汲古書院
- ※25. 有斐閣 六法全書 昭和58年版 Ⅰ-Ⅱ 有斐閣
- 26. 雑学おもしろ読本 日本社
- 27. 図解 遊びの事典(幼児編) 明治図書出版
- 1. Acronyms, Initialisms, & Abbreviations Dictionary. Vol. 1-3.
- 2. Basic Reference Sources : A Self-Study Manual. 2nd ed.
- 3. China Official Annual Report. 1981.
- 4. Computer-Readable Databases : a directory and data sourcebook.
- 5. Guinness Book of Records. 28th ed.
- 6. International Directory Acronyms in Library, Information and Computer Science.
- 7. Internationale Titellabkürzungen. Bd. 1-2.
- 8. Reference Work in the Humanities.
- 9. Social Science Reference Sources.

国立大学図書館等のうごきから

○「大学図書館におけるコンピュータ・ネットワークに関する調査研究班」が、昨年の国大図協総会で設置することが決定したが、その後のうごきは——地域館(RC)として先発の九大・阪大・名大、参加館(ML)の九芸工大等3館及び連絡館の東大で構成し、今年度中にRC間のシステム比較を詳細に行う。その後、現状と問題点を明確にして標準システムのあり方、設計の作成へと進

める予定。——後発館にとって、調査研究の結果が待たれる。

○「著作権の集中処理に関する調査研究協力者会議中間まとめ(複写関係)」が本年6月公表され、関係機関に対し意見が求められた。国大図協では、第2部会(部会長館 阪大)で意見をまとめ文化庁へ提出、説明を行った。その骨子は——集中処理機構設置には異論は無いが、(イ)文献複写による図書館間相互協力が著作権法第31条に低触するのではないかと指摘に対し、大学図書館の使命と実態から妥当ではなく善処を願う。(ロ)発行後相当期間を経過した定期刊行物の定義に関し、複写サービス窓口において複雑さを伴なわぬよう配慮すること。(ハ)コピー業者に委託する場合に際し、複製の主体について付記している事項に関しては、大学図書館の現在の状況から十分に考慮してほしい。——

○学術情報センターの設置促進に関しては、本年6月、要望書としてとりまとめ、国大図協会長から大蔵・行管両省へ提出されたが、学術研究の進

展における学術情報処理体制の重要性に鑑みて、早期の設置方について、10月、両省に対し再度要望書を提出した。

OIFLA(国際図書館連盟)は、図書館関係の最も網羅的な、世界的広がりをもつ国際団体であるが、その第52回大会が1986年初めて日本で開催される。国内の20余の関係団体により大会組織委員会が設置されるが、国大図協からも代表委員を選出することになった。

○文献情報センター(東大)に本年度導入される電算機の機種選定は9月に終わった。明年10月からは、名大・阪大・東工大の図書館と接続して総合運用テストを行ったのち、60年4月から目録・所在情報システムのサービスを開始する予定。

○国立大学図書館協議会賞は、昭和41年以来国立大学附属図書館職員による優れた功績または研究業績に対して選考の上贈られているものであるが、このほど、本年度の募集要項が各大学に送付された。学内本・分館、部局図書室等職員の応募又は推薦を募る。

第38回東北地区大学図書館協議会総会

標記の会議は9月29～30日の両日、弘前大学附属図書館が当番館となり、当大学を会場に、加盟館45館から79名が出席して開催された。

協議に先立ち弘前大学牧野学長の挨拶(代読)があり、次いで議長団の選出を行い、会務報告、一般報告等、昭和57年度決算報告、監査報告の後協議に入った。

弘前大学から提出の八戸大学附属図書館の新規加盟が承認され、同館も協議に加わった。

ここで、3月7日逝去された当協議会顧問、当

館元事務長吉岡孝治郎氏に対する弔意を表すため出席者が1分間の黙祷を行った。

引続き、昭和58年度予算案について審議、原案通り承認された。次いで元当館事務部長長尾公司氏、元当館閲覧掛鈴木幸子氏、元秋田大学附属図書館職員笠原昌子氏、前弘前大学附属図書館職員竹森友雄氏の表彰は満場一致で議決された。実務者研修会は人文社会科学分野のレファレンスをテーマに行うことが、次期総会の開催は岩手地区岩手医科大学が承認された。

全体会の後例年通り国公立部会が行われたが、今回部会終了後、県単位の会が試みとして開かれた。

今回役員の改選が行われ、下記の各館が選出された。

幹事館 山形大学、富士大学、東北学院大学、福島県立医科大学、東北大学（常任）

監査館 宮城県立農業短期大学、東北福祉大学

学術奨励論文審査館 秋田県立農業短期大学、岩手医科大学、山形大学、宮城学院女子大学、東北大学、福島県立会津短期大学

なお、国立部会では、学術情報センターシステムに対する取組みについて協議が行われた結果、「東北地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会要項」が承認された。その要項は下記のとおりである。

東北地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会要項

（昭和58年9月29日
東北地区大学図書館協議会国立部会）

（趣 旨）

1. 東北大学附属図書館を学術情報センターシステムの東北地区の地域センター館とし、同地区内各国立大学附属図書館をシステムの構成館とする図書館業務の機械化ネットワークの円滑な形成とその機能の充実を図るため、東北地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組 織）

2. 協議会は、東北地区内各国立大学附属図書館の館長及び事務（部・課）長をもって組織する。

（協議会委員以外の者の出席）

3. 協議会が必要と認めたときは、協議会委員以外の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

（専門委員会）

4. 協議会の下に図書館業務機械化開発専門委員会（以下「専門委員会」という。）を置く。

5. 専門委員会は、図書館業務の機械化ネットワークの開発に関し必要な専門的な事項について連絡、検討し、最終的には具体的なシステム設計の原案を作成することを目指す。

6. 専門委員会の委員は、協議会委員及び地区内各国立大学附属図書館の実務担当者の中から当該館長が推薦する者をもって構成する。

（事 務）

7. 協議会及び専門委員会に関する事務は、東北大学附属図書館において行う。

（雑 則）

8. この要項に定めるもののほか、必要な事項は、協議会が定める。

附 則

この要項は、昭和58年9月29日から実施する。

図書館業務機械化に関する掛長等懇談会の開催について

標記懇談会が本年9月から毎月1回開催されている。これは、本誌第8巻第1,2号で紹介したように、本学附属図書館業務機械化のための具体的な検討が進められているが、この計画を推進するに際し、本館・分館及び部局図書室等において、日常業務の任にあたっている掛長等の担当者が、学術情報センターシステム及び本学附属図書館業務機械化計画について理解を深め、問題点を協議し、意見を交換することが不可欠であることから開催されることになったもので、掛長全員のほか部課長及び石垣調査研究室研究員を加えて構成している。

第1回は9月27日に行われ、谷本事務部長の挨拶のあと、本学図書館業務機械化計画の概要説明、次いで、ビデオ“The OCLC System”, “Finding Information in the OCLC System”を視聴した。第2回(10月)は、学術情報システムの

現況についての説明、また第3回(11月)は、昭和57年度学術情報センターシステム調査の概要をテーマに開催された。

なお、洋書の目録作成において、本学で採用している英米目録規則(AACR ; Anglo-American Cataloging Rules)が先に大巾に改訂されて第2版(AACR2)が刊行された。今後の書誌情報の流通のためにも標準的目録の作成が必須でもあり、これへ移行すべく、現在、AACR2学習会が洋書目録掛の主催により、本年6月以降毎月定例で開催されている。本・分館のほか研究所図書室等から目録業務担当者が多数出席し、逐条の読会と解説とが行われ、さらには目録業務上において遭遇する疑問や問題点解決のための話し合いも行われているところである。

東北大学記念資料室だより

○ このほど「東北大学記念資料蔵品目録1」(CATALOGUE OF TOHOKU UNIVERSITY ARCHIVES COLLECTION 1)が刊行された。わが東北大学記念資料室が、創立(昭和38年)以来20年間に収集架蔵した記念資料の解題つき目録である。昨年は本学創立75周年にあたり、その記念事業の1つとして記念資料展示会が開催されたが、その機会に前田四郎前学長の御配慮と服藤弘司前室長の御懇請とによって、急遽編纂刊行され75周年の記念出版物となったのがこれである。

20年間に、集積した記念資料は3,000点を越えており、その大体は整理されていたけれども、これを印刷目録に構成し、それに簡単なながらも解説を加えて編纂するのは病後の身には容易でなく、にわかに計画を引受けてから約10ヶ月で完了したのは、望外のよろこびであった。しかし急いだために積残しが出来た。全学各部局で印刷され、毎年本室へ寄贈いただいている刊行物の大部分と、全学の風景・人物など様々な写真類の大部分とである。これらは次の機会に、是非とも2～3年の

間に「……蔵品目録2」の中に掲載する予定である。もとよりその中には、私の不注意のため今回の目録に漏れた各節の品々や、目録刊行後続々と寄せられている多くの品が、一緒に収められる。

この目録の表紙の色は、白か緑か赤かと案が出たが現室長吉岡昭彦図書館長の「赤で行きましょう」の一声で決定した。赤色の評判は大変よいようで、石田名香雄新総長は進んでこの目録を「私は赤本と呼んでいるのです」と、愛称を与えて下さり、片手に携えて早速本室を訪問し、熱い思いをこめて資料を観て行かれた。意外に多くの資料が比較的良好な状態で保存されているのを認められたようである。

この目録の序文は前田前学長が執筆し、中に、やがて記念資料収集の動きが日本全国の大学にひろがるであろうと言っておられる。それを裏打ち

するように、本目録を受贈された現宇都宮大学長の世良晃志郎本学名誉教授は、宇都宮大学でも2年ほど前から記念資料の収集をはじめたので、これは大変よい参考になるといって来られた。

○ 目録が刊行されてから、各方面から反響がおこっている。その1つ最も著るしいものは、本学の校旗が学生部体育掛から本室へ寄贈されたことである。白地に金で大学と刺繍し紫の房でふちどられた美しいもの。旗竿は失われている。その他の多くの寄贈品や、寄せられた書簡については追って伝えることとする。

○ 医学部の良陵医学振興会事務局で編集刊行した写真集「良陵百十年 東北大学医学部」が本室に寄贈された。立派なもので全国的にもあまり例のない名著だと思う。本学記念資料活動の強力な一角が形成されつつあることを心から祝いたい。

会 議 等

○ 図書館業務機械化懇談会（第1回）

と き：昭和58年9月27日

ところ：本館会議室

○ 第38回東北地区大学図書館協議会総会

と き：昭和58年9月29～30日

ところ：弘前大学附属図書館

出席者：吉岡館長、谷本事務部長、村岡企画・

渉外掛長、佐藤医学分館事務長、菅野北青葉山分館図書掛長、栃原工学分館整理運用掛長、中島農学分館図書掛長

○ 第57次国立七大学附属図書館協議会、第16回国立七大学附属図書館部課長会議

と き：昭和58年10月13日

ところ：名古屋大学附属図書館

出席者：吉岡館長、谷本事務部長、熊谷整理課長

—— 指 定 図 書 に つ い て ——

昭和59年度の指定図書実施計画をたてるため、本年9月より各学部・教養部の講義担当教官にたいし、その指定方を依頼していましたが、この程リストの提出が終了しましたので、現在それに基づき実施計画をたてています。これらの指定図書は、受入整理後直ちに本館・分館の閲覧室に配架され利用に供されることとなりますが、講義担当

教官が講義に直接関連する必読書として特に指定した図書ですので、大いに利用されることを願っています。なお本館では、指定図書のリストを作成し、新年度の開講までには担当教官及び学生に配布する予定ですので、こちらの方も活用されるよう期待いたします。

休館等のお知らせ

年末年始及び年度末の休館・休室及び延長開館の予定は次のとおりです。

・休館

- 1 年末年始：昭和58年12月27日（火）から
昭和59年1月4日（水）まで

・休室

- 1 12月下旬並びに3月下旬はそれぞれ数日間、
配架整備のため開架閲覧室を閉室する予定です。
日程は確定次第お知らせしますので館内

掲示にご注意下さい。

・延長開館 平日20時、土曜日17時まで（開架閲覧室、カタログホール）

- 1 昭和58年12月24日（土）まで
- 2 昭和59年1月17日（火）～2月25日（土）まで

なお、教養部の定期試験時は自由閲覧室も開室予定ですが、期間については館内掲示でお知らせします。

訂正等

Vol. 8. No. 2

P 3

誤

正

「拝啓 櫛田学兄……」

「拝呈 櫛田学兄」

P 5

誤

正

「相当乱棒なこと……」

「相当乱暴なこと」

P 12

誤

正

一般経過報告……

一般経過報告

各種委員会報告

各種委員会報告

P 14

誤

正

大型

大計

人事異動

本館に図書館専門員配置される。

月1日付で阿部壽雄氏が発令されました。

このたび、国立大学附属図書館の事務組織の充実、事務の効率化等を図るため、本館整理課に図書館専門員が配置されることになり、昭和58年10

なお、同氏は当分の間、整理課受入掛長に併任されます。

発令年月日	旧官職	氏名	新官職	備考
58. 10. 1	整理課受入掛長	阿部 壽雄	整理課図書館専門員	配置換
10. 16	医学分館事務補佐員	平田 敬子		辞職
11. 1		工藤 洋子	医学分館事務補佐員	採用
11. 6	工学分館事務補佐員	田中 恭子		辞職

東北大学附属図書館報「木通子」 第8巻 第3号（通巻第31号）発行日 昭和58年11月30日

編集委員長 千葉龍郎 編集委員 橋本美知子、松元義正、阿部佳市、吉川和幸

発行人 谷本幹男 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800 (2408)